

令和5年度第2回長井市振興審議会 議事録

開催日時：令和5年9月5日（火） 15時00分～17時00分

開催場所：長井市役所 庁議室

出席者：28名（委員13名、事務局15名）

■振興審議会委員 遠藤倫夫委員、加藤眞佐夫委員、齋藤裕之委員、蒲生直樹委員、上村正巳委員、青木與惣右エ門委員、下平裕之委員、井上榮子委員、鷲見孝委員、梅津壮一郎委員、梅村律子委員、土屋智代委員、長沼真知子委員

（出席13名、欠席5名）

■事務局 齋藤環樹副市長、土屋正人教育長、青木邦博技術参与、高石潤一危機管理参与、新野弘明総務参事、梅津義徳厚生参事、赤間茂樹産業参事、佐原勝博建設参事、佐藤久財政課長、高世潤教育総務課長、総合政策課 渡邊恵子課長、佐々木真一総合戦略室長、長谷部貴子主査、安部惇士主任、本間大輝主事

傍聴者：無し

【次 第】

- 1 開 会
- 2 あいさつ
- 3 協 議
 - （1）第六次総合計画 基本構想（案）について（資料1—1、1—2）
 - （2）第六次総合計画 前期基本計画（案）について（資料2—1、2—2、2—3）
- 4 説明
 - （1）第六次総合計画の評価方法について（資料3）
- 5 その他
- 6 閉 会

【議事録】

1 開 会

2 あいさつ

○齋藤環樹 副市長

本日は本当にお忙しいところご出席をいただき感謝申し上げます。

また委員の皆様には日頃から話のまちづくりに特段のご理解とご協力をいただき感謝申し上げます。

ご挨拶に入る前にくるんが8月11日にプレオープンし、大体毎日2,000人近くにご来場いただいているが、9月1日にグランドオープンし、この土日、9月2日、3日は、土曜日は2,915人、日曜日は3,663人、大変多くの皆様にご入場いただいた。大変ありがたいと思っている。

かねてより、皆様にご協議いただいている第六次総合計画については、策定作業もいよいよ佳境に入ってきた。今回の振興審議会を経て、皆様からご意見を伺った後に、10月に市民の皆様からご意見をいただくパブリックコメントや地区別説明会を行う予定。

さらに、次回の振興審議会では、パブリックコメントを踏まえ、下平会長から内容市長へ答申を行っていただく予定。

本日の振興審議会では、これまでの振興審議会委員の皆様からいただいたご意見を踏ま

えて、第六次総合計画の基本構想案、前期基本計画案についてご提案をさせていただく。ぜひ活発なご意見を賜りますようお願いを申し上げる。

○下平裕之会長

計画案について、皆様にご指導いただく。計画が形になってきた。私も先ほどくるんに行き、皆さんが集うハード整備がしっかりできてきたと感じた。こういった一つの取り組みを長井市全体で活性化し、将来につなげていく計画になるよう皆様から様々ご意見をいただきたい。

3 協 議 [座長＝下平会長]

(1) 第六次総合計画 基本構想(案)について

資料1-1、1-2に沿って、事務局から説明。

(2) 第六次総合計画 前期基本計画(案)について

資料2-1、2-2、2-3に沿って、事務局から説明。

(委員)

将来像について、指摘された部分を読むと確かになと思う。それに基づいた修正案があり、じっくりくると思った。わかりやすく、覚えやすく、スッと心に入ってくると思う。重点戦略について、前回もあったようにやはり市民一人一人が長井市の魅力を気づいていくことが一番大事で、それがないと観光客の方が何がいいのか市民の人に聞いたときに、「うちは何もないよ」などの意見が多かったりする。その一人一人の意識を変えていくことが一番大事で一番難しい。それを今回の戦略の中に入れていくということで、最後に期待される市民のアクションが入っているが、ちょっと強制的な感じがする。もう少し市からも後押しを全面的にしていこうという意図が見えるといい。市としての戦略が、主な取り組みとしてあり、それに基づいて期待されることを書いていただいたと思うが、そこまでみんなに期待できるかというと、もう少し具体的なものを変えたほうがいい。私は小さい子どもがいるので教育面のところを重点的に見てしまうが、期待される市民のアクションの一番上に「長井の教育、子育ての魅力や住みやすさを、市外の人へのPR」と言われても、自分たちが何を期待されているのかわからない。その辺がすこし、抽象的すぎると思った。

(委員)

まず資料1-1で修正案が出ていたが、じっくりこなかったのが、「みんな”が”」と後ろも「笑顔”が”」と両方に「が」が来て、口に出したときにちょっと言いにくい。前回の時に「ずっと」と「いつまでも」が、同じだと思ったので、そこが一つになったのはよかった。すっきりした。微調整を一生懸命したんだろうなと感じた。よい修正案だと思う。

また、期待されるその市民のアクションがやはり気になった。何をしたらこのアクションが出てくると言われた方が、ここはわかりやすい。上に①②③と書いてあるので、それに対してこういうことが期待されると言われるとわかるが、どういうことだろうと思った。自分が今やっていることが様々あり、様々なところに顔を出している。音楽や、交通安全など様々なことをしているが、その活動がこの資料の中であまり当てはまらないと思った。

一番下にキーワードを紡ぐとつけたのはすごく良い。一番上の共通するテーマを検討中とあるが、ここに紡ぐを入れてもらおうと全体がまとまりやすい。ここの部分は良いことを考えていただいたと思う。

(委員)

将来像については、わかりやすく、平易な言葉で印象に残りやすく、やさしい印象があ

りよく修正されていると思った。

資料2-1について、私もやはり期待される市民のアクションのところ、前回、振興審議会で私たちは具体的に何をしたらいいかという話をし、それから期待される市民のアクションを書いていただいた。しかし、これを見て自分はこれを読んだからこれをしようと、一人一人が考えるのは難しいと思うので、具体的に、例えば、「コミセンの行事でこれをするから参加してくれませんか」や、「子育て関係の行事があるので、町から、何人参加してくれませんか」など、そういう具体的な提案や要請を各方面に細かくして、皆さんの力を借りるというような、細かいこれからの企画や方針、方法を考えていくのだろうなといろんな面を想像した。

しかし「こういう政策です」というだけではなく、市民の行動を喚起して市民のアクションを最大限に活かしていくことを念頭に置いた取り組みをここで挙げているのは、大変いいことだと思う。

(委員)

将来像についてすごく言いやすいと感じる。特に異論はない。

重点戦略について、皆さんおっしゃっているが、私も期待される市民のアクションが気になっており、市民のアクションを起こすために、これから出る基本計画に行政の方で取り組みが記載されていると思う。例えば、まちなかで開催するイベントの積極的な参加や自発的な企画ということで、私が入っている商店街では、どんどん会員数が減ってきており、イベントを実施するのが非常に困難。高校生や地元の若い人たちにぜひ協力いただきたいと思っているものの、なかなかそうならず、金銭的にもマンパワーも足りず縮小せざるをえない状況だが、今年長井市の方で10月1日、本町で行うイベントで市の方と一緒にイベントを盛り上げるということで、これを契機にアクションが起こるような取り組みを行政の方たちに頑張ってもらいたいと思った。

(委員)

資料1-1については賛成。

資料2-1について、皆さんと同じだが、市民の参加をどのように後押しするか、参加しないと損する、もしくは得しないといったメリットが感じられるアクションって何かというのが難しいが、何でもかんでも市が主導して後押ししていくのは、ちょっと違うのかなと思う。逆に、個人が人口減少社会で、このまち潰れるんじゃないかなという危機感を持ったときに「自分がやらなきゃ参加しなきゃ」、「ここは自分が得意だからできるかな」というようにどのようにできるか。良い案はないが、そこが見えると市民が入りやすい。結果、うまく回っていくようになればいいと思う。ただ、そこが一番難しいと感じる。

また、資料2-2をざっと見たが、私の関係するところで観光と交流定住を非常に意識しているが、ここら辺を行政はどうしても縦割りになるので、観光文化交流課と総合政策課と一緒に進めていく施策もあるといいなと思った。すでにやってらっしゃるのであればそれでいいが、そういうのもあるといいかなと思う。

(委員)

将来像については賛成。ただし、「水と緑と花のながい」について、前回までは上位目標として継続するという話になり、「水」について下水道に関する意見があるなど、飾ってあるものでなく、引き継いでいくべきものだというご意見があったが、それとの関連が疑問だ。資料1-2の11ページ「目指すまちの姿」には、「「水と緑と花のまち」に誇りと愛する心を持ち、市民が自らまちづくりに参加することで、より良いまちを創り上げていく」と記されている。上位目標は継続しながら、新しい将来像のもとでさらに幸せを増していく」というロジックになっていない。次の計画の表紙にも「水と緑と花のながい」が見えるようにするという話もあったが、そこら辺との兼ね合いを整理していただけたらと思う。

くるんとの図書で長井市史を改めて読み返したが、「水と緑と花のながい」は、「文化

や自然環境、伝統を生かしながら、社会の変化に対応して市民が協働してまちづくりをしていく」という意味を含めたビジョンだと理解した。「継続してさらに幸せなまちにしていく」というふうに整理が必要だと思った。

二つ目に、重点戦略について、今までの第五次総合計画では、「分野共通に取り組む内容」があり、施策ごとに位置付けることで、課題が解決されていることがチェックされていた。そこをなくして、重点戦略ということで、縦軸としていろんな施策を推進する柱にしていくと理解している。そういう意味で、きちんこの重点戦略が基本施策に落とし込まれて生かされているかというチェックが必要だと思う。「分野共通した内容」というような形がなくなったとしても、課題がしっかり解決するような中身にして欲しいと思う。

関連して、重点戦略に市民参加を具体的に書くことも大事だが、むしろこの欄は、主要課題との関連を位置付けたらどうかと思う。市民が参加する活動の場はさまざま、施策一つ一つに当てはまるので、例えば「若者が活躍できるまちプロジェクトはこの課題を解決するためのものだ」とこの欄で打ち出してはどうかと思う。

次に、資料１－２で、男女共同参画の視点から意見を申し上げたい。６ページの「現在の長井市の姿と将来の見通し」のところに、前回までの資料では世代別・男女別の人口比の推移があったが、それが今回の資料でなくなっている。やはり若年、特に若い女性の定着や戻っていただくことが全国的な一番の課題なので、ここは今までの審議会の資料にあった世代別男女別の人口比の推移のグラフを外さないで、課題としてしっかり取り組むことが必要なので、見直していただきたい。

７月に人口動態調査が出て山形県は全国でワースト４位であり、国としても大きな施策が必要だが、長井市の新総合計画では若い女性に視点を当てた対策が反映された中身にしていただきたいと思う。

また、質問だが、資料２－３の６５ページに教育の大綱とあるが、これはどういうことか教えていただきたい。

なお、分野５－②「地域づくり」のところで男女共同参画計画を策定中ということで、そこによって内容が変わってくるというお話をいただいていた。この間も申し上げたが、「理解の促進と意識の醸成」だけでなく、今は男女共同参画社会の実現に向けて策定を進めているので、そこがきちんと反映される中身に今後なっていくように庁内で調整していただきたい。

(事務局)

地方教育行政法で、市長部局で教育の大綱を作り、それを踏まえた教育振興計画を作ることにしている。六次総を踏まえ長井市の教育をどういうふうにするか、計画の後半に大綱をお示しする予定。

具体的には教育総会議において市長と教育委員がそれぞれ話し合いながら、この大綱について検討していく。この六次総で示される教育の分野については、大綱で具体的に、教育振興計画ではさらに重点的かつ詳細な形でお示するという計画になっている。

(下平会長)

「水と緑と花のながい」の将来像との整合性についても事務局から回答いただく。

(事務局)

井上委員からご紹介いただいた通り資料１－２の１１ページに記載しているまちづくりの基本理念というところに「水と緑と花のながい」、前回のお示しさせていただいた中身をもとに記載させていただいたが、前のページの課題の部分と次のページの将来像へとつながるロジックを検討した際、「水と緑と花のまち」の捉え方、書きぶりの配慮が足りなかったと思う。あくまでも「水と緑と花のながい」によって「市民が誇りと愛する心を持てるようにする」とことと、「次世代につないでいく」ことがわかるような書きぶりになるよう、まちづくりの基本理念の部分の修正していきたいと考えている。

【会議後事務局回答】

検討し、基本構想 11P5 行目について、以下のとおり修正したいと考えています。

【修正後】

市民によるまちづくりへの参画を後押しするための原動力は郷土を愛する心です。長井市は、恵まれた自然環境のもと、先人たちの努力によって文化・産業が築きあげられ、活力ある「水と緑と花のまち 長井」として発展し、市民の誇りが醸成されてきました。

この理念を継承していくため、第六次総合計画においても「水と緑と花のまち」を次世代へとつなぐとともに発展させていき、より良いまちを創り上げていく取り組みを目指します。

【修正前】

長井市は、恵まれた自然環境のもと、先人たちの努力によって活力ある「水と緑と花のまち 長井」として発展してきました。この「水と緑と花のまち」に誇りと愛する心を持ち、市民が自らまちづくりに参加することでより良いまちを創り上げていく取り組みを目指します。

(委員)

将来像については、「暮らせる」という言葉、しっかりと落ち着いた表現で地に足をつけて「長井でしっかり暮らすぞ」という意味が感じ取れる良い言葉入れていただいたと思う。これについては賛成。

重点戦略について、特に①の若者が活躍できるまちだが、活躍の場がけっこうありそうでなさそうで、やはり一番期待したいところだが、活躍している姿っていうのをどのように描くのか、そこがやはり重点的な取り組みと直結しているといいなと思う。若者はいろいろあるが、おおよそは高校を出てから一旦都会に出てしまとなかなか戻らない状況なので、都会に出る前の子どもの活躍や戻ってきた方々がここで定住し、働きがい、生きがいを見つけながら、未来の長井を積極的に作っていく姿が望ましい。取り組みを三つ挙げていただいているが、これがいろんな形でこうした姿に結びついていくんだろうと思う。これだけではなく組織横断型の中で、若者の意見や若者の力を借りるなど、地域参画を積極的に促せるような仕組みを共通してやっていくなど、施策とはまた別の次元での働きかけなり仕掛けなり、そういったところに結びついていくことが望ましいかなと考えている。

(委員)

企業の感覚としては、長井市のまちが良くなることは大変良いのだが、ここまで深く物事を考えて見つめているわけではない。求めることは、生産活動に非常に便利なまちになってもらい、あとは企業の責任である賃金。我々も毎年3%と思ったら毎年3.4%以上は賃上げしなきゃ駄目ということで、激烈な競争の中になっている。この前、日本政策金融公庫の国民金融事業に聞いた話では、全国に大体380万社の企業があるが、そのうち270万社に後継者がいない、もしくは廃業予定ということで、山形県だけの問題ではなくなっている。住みよい街とか水がきれいという話があったが、企業の場合はそういう状態ではない。ただ、若者たちにとっては、やはり楽しく暮らせるまちや、お金の問題だけでなく、住みやすさが必要ではないのかと思う。

しかし、私個人の素直な気持ちは、畑仕事をしたくないから広い畑をアスファルトにしようか、除雪機も何歳まで使えるんだろうかなど、保健や医療、福祉などに意識があり、全部売り払って、雪のないまちに行っただ方が楽なんじゃないかとも思う。最後はおそらくこの県であろうが老人福祉施設などにお世話になる。子供の面倒にはならないという気持ちで頑張ることを考えると、東北山形の最大の弱点は雪なので、雪片付けしなくていいのであれば、私はここにずっといると思う。

将来像の修正案の「みんながしあわせに暮らせる長井」で十分だと思う。

資料1-1の「案への意見等」の部分の排他的に関連して、近々地域の水路掃除があるが、最近はやっとしんどく、何歳まで参加しなくてはいけないのかなと思っている。ただ、これに参加しないと陰で何言われるんだろうという不安もある。そこら辺も、ある程度、行政レベルから「そんなに無理をしなくても」と何かあってもいいんじゃないかと思

う。また、朝 6 時半スタートとなっていて、みんなは 5 時半頃からやっているの、6 時頃行くと遅刻したような感じになる。こういったことも排他的で住みにくいように感じる。アパートに入っている方々も、本来は参加しなくてはいけないが参加していないという実情もある。

全体的な案は賛成。

(下平会長)

確かにコミュニティのつながりが強すぎるのも問題点。ゆるすぎても良くないのだが。

(委員)

このまちの将来像について排他的な印象を持つ方がいらっしゃるのか？というのが最初の印象だった。私は特に思わなかったが、そういうふうに思う方がいらっしゃるのであれば、この修正をして良かったと思う。

私は前から青年会議所やロータリークラブなどボランティア団体みたいなところに属しているが、重点戦略案の「世代を超えて支え合うまちプロジェクト」で、除雪等のボランティアに対応しているのはわかるが、様々な団体の方たちにも来ていただいており、市職員の方もやってらっしゃるかもしれないが、なかには「ボランティアに任せてしまえばいいや」というような、「俺たちは行政だから関係ない。休みの日出てっても給料が出ないからしない」といった方もいる。そのため安易に「ボランティア体制を充実」というのは、行政の方が言うべきではないと思う。確かにボランティアと行政は両輪だと思うが、当たり前だと思って欲しくないと、ボランティアをずっとやっていた身としては思う。

(下平会長)

今のご意見、今後市民のアクションは皆さん様々な点でぜひ考えていただきたいところだなと思う。やはり市民自身が取り組んでいく視点は大事だと思う。ただ余りにもボランティアに任せ過ぎというのはやはりよろしくない。そういった面も考えながら重点戦略を考えていく必要がある。

(委員)

資料 1－1 のまちの将来像については賛成。ただ先ほど他の委員も気になるとおっしゃっていたが「ずっと笑顔が」を「ずっと笑顔の」に変えても良いと思う。「ずっと笑顔の」にしても中身は変わらない。

資料 2－1 の重点戦略について「若者が活躍できるまちプロジェクト」があり、他の委員が最初におっしゃったが、期待される市民のアクションが、市外の人々への PR というのはどうなのかと思う。若者がこのまちを市外の人々へ PR して欲しいということだと思うが期待される市民のアクションとしてはどうなのかと思う。ただ、大学に行く前の高校生や中学生、大学を出てリターンする若者の意見をくみ上げるような仕組みが市として必要じゃないかと思う。あるいはこのような審議会も、もっと若い人たちに委員になってもらうなど様々な方法が考えられないかと思う。

資料 2－2 の基本目標 4 に「住みやすく住み続けたいまちづくり」の 4－①(2)「景観を活かしたウォーカブルなまちづくり」について、おそらく国の方で使っているの使っているのだろうと思うが、「歩きやすい」ではだめなのか。ただ、「歩きやすいまちづくり」とすると指標の設定が難しくなると思う。「ウォーカブルなまちづくり」の指標が「フットパスウォーク参加者の満足度」だけでいいのか。本当にイメージしている景観を活かしたまちづくりとはどういうことを言っているのか。重要文化的景観の宮小桜街区の整備まで含んでいるのであれば、中身は大きくなっていくと思う。重要文化的景観選定の文化財活用で誘客促進というところにも関わる中身なのか、あるいは商店街と関わりもどうなのかと思った。

(下平会長)

「ウォーカブルなまちづくり」の成果指標について回答をお願いします。

(事務局)

今ご意見があった「ウォーカブル」という文言は「歩きたくなるまち」という意味。その指標として、「フットパスウォーク参加者の満足度」だけというのはおかしいのではないかというのは、おっしゃる通り。我々が今後目指す市街地のまちづくりというのは、ウォーカブルでないといけない。それはやはり宮小桜街区もそうだが、駅前の長井駅海田線の街路整備も始まるが、それと併せた市街地の整備については、歩くということを重要視するという意味のウォーカブルということで今回の文言にしている。

ご指摘いただいた指標についてはそのとおりだと思うので訂正を検討したい。例えば、街路ができた後の歩行者数も指標の一つになりうる。

【会議後事務局回答】

指標について検討したところ、宮小桜街区の整備については、現時点で具体的な着手の時期が決まっておらず、前期基本計画期間（令和6～10年度）内の成果指標を設定することが困難です。

また、主要事業4-①-(1)「快適で利便性の高い都市機能の整備」の成果指標に「中心市街地における交通量（歩行者、自動車、二輪）」を設定しており、市街地の歩行者数はこちらの指標によって測定することとなっています。

そのため、本主要施策の成果指標としては、前期基本計画期間内に関連する取り組みの推進が見込まれるフットパスに関する指標が適切と思われるため、成果指標は修正せず「フットパスウォーク参加者の満足度」としたいと考えています。

(委員)

確認だが、「歩きたくなるまち」で「歩きやすい」ではないのか。

(事務局)

歩きたくなるまちという意味。

(委員)

ものによってはウォーカブルを歩きやすいとも書いてあった。市民に提示をする時にはわかるような表現していただきたい。

(下平会長)

確か国の方にウォーカブルの表現が多い。やはり今後市民が見ることを意識する必要がある。

(委員)

まず、将来像の部分については暮らせるという文言に変えていただいた。この住み続けたいというふうな形の表現が排他的というのは、私自身としては結びつかない。ただ、「暮らせる」というふうな表現修正が確かにしっくりくるのでこれに賛成。他の委員の意見にもあったが、「みんなが」と「ずっと笑顔が」とどちらにも「が」が使われている点は、やはりちょっと引っかかる。「の」に変えるか、後の方の笑顔の「が」を外すような形でまとめていただければと思う。

重点戦略について、何人かの委員の意見もあったが、期待される市民へのアクションがなかなかしっくりこない。10月にパブコメや地区説明会をするわけだが、住民の方がしっくりくるような形で、お示しいただければありがたい。

主要施策に関して2点。資料2-2のP4環境エネルギーのリサイクル率について、基本構想のなかで、安心して健やかに暮らせるまちにレインボープランやカーボンニュートラ

ルという表現が使われているが、ごみ関係でプラスチックの資源循環促進法が昨年施行されている。広域の行政組合という関係もあるだろうが、他県においてもすでに今年から対応されているというところが出てきている。長井市においても、このリサイクル関係の中で、プラスチック資源循環促進法の内容を取り込んだものをぜひ具体的に指標として盛り込んでいただきたい。

2点目として、福祉分野のなかの「地域福祉と福祉サービスの充実」で「民生委員児童委員の定数の充足割合」として100%の目標値を掲げているが、現状94.6%という数字となっている。その中には、どうしても見つからないということで、複数地区において地区長が民生委員を引き受けざるをえない状況。そこまでしても現状の充足率は94.6%という数字になっている。市の方でも一緒になっていただいているが、もっと充足されるような具体的な取り組みについて、ぜひ検討いただきたい。

(下平会長)

民生委員の成果指標について何かあれば。

(事務局)

今出していただいた2点とも非常に大切な部分と捉えている。プラスチックのリサイクル率については、広域で取り組んでいることもあるので、主要施策の中に入れていくかについては検討させていただきたい。

民生委員の充足率についてもご指摘のとおりだが、背景として、今後、地域福祉や支え合いの必要性、重要性も高まっていくという捉え方をしている中で、民生委員の役割であったり、確保であったり、もう少し具体的にというご指摘なので、検討させていただければと思う。

(下平会長)

ご検討いただければと思う。

(委員)

資料1-1の将来像について、幸せに関する市民アンケートを見ると、若い世代が70%でそれ以外の方の8割近くが「幸せだと思う」と回答している。そのなかで「幸せ」をもっと頑張ろうという気持ちだと思っているが、そのところの表現がいまいかなと思う。

また「ずっと笑顔が」の「が」を消して、「ずっと笑顔あふれるまち」とすれば良いと思う。

重点戦略については、期待される市民のアクションで、いずれも例えば「積極的な参加が必要」ということしか書いておらず、参加できるような取り組みをやはり行政で支援してもらわないといけない。市民の皆さんに問いかけても「そうですか」と言うだけだと思う。打てば響くとなっていくないと、絵に描いた餅になってしまうので行政の支援が欲しいなと思う。プロジェクトの効果についても、いずれも市民と行政が一緒になって連携していかないとどうしようもない。行政の方が「やってくださいね。」「頑張ってください」の方を支援しますよ」という内容では、市民の方が「よし、やろう」という気持ちにならない。ボランティアの話と同様だが市民の意識は高いと思っているので、それに訴えかけて、市民を動かせるような支援をしていただければと思う。

(委員)

まず、将来像について、皆様細かい本文の修正等は再度必要ということだったが、基本的な修正の方向性については、皆様からご了承いただけたと判断している。私も「住み続けたい」に排他性を感じていなかったが、まず全体的にはこれまでの案の必要なキーワードについて書いているので、わかりやすい形に修正したと考えることができると思う。

重点戦略、市民のアクションについても皆様からご意見いただいた。重点戦略のところの市民のアクションは、おそらく例として、スペース的にもなかなか書けないなかでこのように書かれていると思う。全体的なバランスでどこまで具体的に書くのかも難しかったと思う。市民が動く、それを行政が支えるといった観点については、皆様共通してそういった視点が必要だという意見だったと思う。そういった観点から、今回、皆様のご意見を取り入れる形でうまく修正をしていただければいいかと思う。

また、主要施策の方で今日は時間の関係で、すべてはご意見いただけなかったと思う。これについては先ほど事務局からあったように、今後皆様にお伺いする形になると思う。特に施策と成果指標との関係について、できるだけ施策の成果を明確に反映できる指標を適正に出していただきたい。単に行政のアリバイづくりみたいな数字があるという厳しいご意見があったりするので、やはり施策がしっかり進んでいることがわかる指標を設定していただきたい。

私としては、非常にわかりやすいものになっていると思う。目指す姿は、前期基本計画で、こういうまちになって欲しいというところが示され、そうなるための具体的な施策、そして指標が示されている。

それでは、皆様から追加で何かご質問、ご意見等ある方いらっしゃればお願いします。

(委員)

パブリックコメントに向けて、追加して意見を述べたい。1点目は環境エネルギーのレインボープランについて、この審議会でもレインボープランの今後について回答いただいた経過もあるが、教科書にも掲載され、全国からも注目を受けてきた長井市が誇る取り組みだったわけなので、「環境エネルギー分野 目指す姿」のところにレインボープランの成果をきちんと書いて、それがこのような理由でこう変わるということが、わかりやすく市民の方も理解できるように書き、記録しておくことも必要かと思った。

もう1点が、財政面について、これも審議会でご意見があったところだが、基本構想の8ページの財政面のところは新計画の基盤となるところだ。市議会だよりや広報誌などにも書いているように、「中期財政見直しを踏まえて、公債比率が18%を超えることがないように効率的な計画を立てて取り組んできており、引き続き今後も効果的な事業実施と財源確保に努める」と書いておいた方が市民にわかりやすいと思う。

(事務局)

いろいろご意見いただき感謝申し上げます。まず民生委員児童委員のお話について、民生委員児童委員は厚生労働大臣が任命する国の職員で、この地域福祉を担う大きな力になる方々だが、今報酬はほとんどない。ただし長井市の特別職ではないので、国が処遇を大きく変えるなど、そういった大きな話をしないとなかなか現状は変わらない。

また、期待される市民のアクションのところで市民の方々の参加が後押しできる仕掛けなどがあると良いというご意見があったが、今スマートシティ施策として地域通貨のところでポイント付与ということを検討している。例えば、ボランティア活動などに参加すると何ポイント、あるいは健康づくりの例えば100歳体操などにいけば何ポイントという方策も検討している。

最後に、この資料の2-1の重点戦略のところで、縦割りのようなお話もあったが、この2のところで、白い点線で書いているが、重点戦略の共通するテーマ、この共通する考え方や、思想など、例えば今年の施政方針で言うところのダイバーシティやインクルージョン、well-being、寛容性など、そういった言葉はこの重点戦略の各部門のところには使わず、ここのところで、全体に流れる考え方や方針にも触れていきたいと考えているのでよろしく願いたい。

【会議後事務局補足】

①将来像の文言について

各委員のご意見を踏まえ、「が」の重複を避け、「みんながしあわせに暮らせる長井
～ずっと笑顔あふれるまち～」に修正したいと考えています。

②「期待される市民のアクション」について

各委員のご意見を踏まえ、市民にとって何を行動すればよいのかわかりやすい書きぶり
への修正を検討しています。

具体的な内容については、10月初旬に予定するパブコメ前の確認作業の際にお示しま
すので、ご確認ください。

例：教育⇒「学校以外にも「くるんと」や旧長井小学校第一校舎などで開催するさまざ
まな学習活動に参加してみよう！」

住まい⇒「地域で行う美化活動に参加してみよう！」

③重点戦略の共通するテーマについて

現時点では「一人ひとりが輝く インクルーシブなまちづくり」を共通する目標とする
旨、記載する方向で調整しています。

4 説明

(1) 今後のスケジュールについて

資料3に沿って、事務局から説明。

5 その他

特になし

6 閉 会